

10月29日(土)に北方市民センターで「生き生き子ども講座」が行われました。「生き生き子ども講座」とは子ども同士の交流の場が減ってきている現在、小学生の子どもたちが学年の壁を越えた関わりを持つことを目的としたもので、一昔前の子ども会のような役割を果たしています。この講座は年に6回行われ、4回目に当たる今回は、子どもたちと一緒にちらし寿司とアップルケーキを作りました。

子どもたちの参加人数は約40人と今年度の活動では最も多く、学年がバラバラになるように4つの班に分かれて活動を行いました。子どもたちは様々な学年の子と協力して料理をしていました。特に火



でした。しかし、子どもたちの方からたくさん話しかけてくれたおかげで楽しく活動することができました。421Lab.には「生き生き子ども講座」をはじめ、1日単位からでも参加できる活動は他にもたくさんあるので、ぜひみなさんも参加してみてください！(記事：佐藤)



生き生き子ども講座は年に6回行われており、来年度も実施されます。子どもたちと楽しい時間を過ごしてみませんか？

興味のある方は421Lab.まで



や包丁を使うときは、上級生が率先して行ったり、下級生に使い方や切り方を教えたりといった姿を見ることができ、各班和気あいあいとした雰囲気につつまれていました。最後は自分たちで作った料理を食べて、みんなとても満足した様子でした。

今回の講座にはボランティアとして6人の北九大生が参加し、4人が初参加者でした。この記事を書かせてもらっている私も初参加者として、活動する前まで子どもたちと仲よくできるか不安

編集後記

『Lab. Times 10』を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけたでしょうか。421Lab.では、他にも子どもを対象に活動を行っています。子どもたちと関わるのは非常に楽しいですよ。気になったあなた、子どもが好きなあなた、是非421Lab.に足を運んでみてください。メールや掲示でもボランティアの募集を行っています。次号もどうかよろしくお願致します。



編集長：黒松 隆志

《プロフィール》

地域創生学群 1年。今年から運営スタッフに所属し、食と農業まなび場PJのリーダーとしても奮闘。どんなことにも基本的に全力投球。浮かべる表情はほぼ笑顔。ノリと勢いだけは人一倍。ゲームが好きで、中でもポケモンへの愛情が深い。新作が出るたびにテンションが上がる。421Lab. トップのポケモントレーナーを密かに狙っているらしい…。



北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
〒802-8577
北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)
Open / 10:00-18:00 (月~金)
[Tel] 093-964-4092 [Fax] 093-964-4088
[Mail] info421@kitakyu-u.ac.jp
[Web & Facebook & Twitter]

421Lab.

検索

《編集者：植山・黒松・佐藤》

子ども特集

今月のLab. Timesは子ども特集です！421Lab.には子どもとふれあうプロジェクトやイベント、ボランティアがたくさんあります。本号ではその中でも、小学生の大学訪問、広徳小学校にて行われた食べ物ランド、生き生き子ども講座を紹介します！



北九大に小学生がやってきた！

11月7日(月)に広徳小学校と徳力小学校の6年生132名が北九大に来てくれました。2つの小学校が合同で訪問するのは今回がはじめてです。キャリア教育の一環として小学生に大学を身近に感じてもらうことを目的に開催されました。小学校からの依頼を受け、421Lab.がこの企画の運営に携わりました。当日は421Lab.の学生運営スタッフ、地域クリーンアッププロジェクト、防犯・防災プロジェクト、東日本『絆』プロジェクト、ハッピーバースデープロジェクトのメンバーがスタッフとして参加しました。

最初に行われたオリエンテーションでは、大学の生徒数や時間割などを小学校と比較しながら紹介しました。

次にキャンパスツアーとして、体育館や食堂、図書館などをまわりました。日ごろ私たちが当たり前のように使っている場所ですが、小学生にとっては驚く点がいくつもあったようです。特に今年の4月に完成したばかりの図書館を見た小学生からは「すごい！」という声が上がっていました。

キャンパスツアー後は、大学生から小学生に向けて将来の夢や中学校・高校で学んで来たことなどを発表したり、交流したりする場が設けられました。大学生と小学生が一緒になって将来の夢について語り合いました。そして、中学校に入って何を頑張りたいかなどを聞くことができ、希望に満ち溢れた表情で夢を語っている子ども達の姿を見ることができました。

今回企画に関わった421Lab.学生運営スタッフの河内佐妃さん(外国語学部・1年)は「ツアーと一緒にまわり、小学生が自分達の学校とは違う大学の構造を見て、大きな反応を示してくれたのが嬉しかったです。私も小学生の時にこのように大学を見学して、大学生と話す機会があったら良かったのと思いました。また、そのような機会があることを羨ましくも思いました。」と語ってくれました。これをきっかけに、7年後北九大に来てもらえれば嬉しいです。

(記事：植山)

食べる国際貢献 & 食と農業まなび場
プロジェクト プロジェクト

食べもののランド

11月16日(水)~18日(金)の3日間、
広徳小学校の食育の一環として、
2つのプロジェクトが子どもたちを対象に
展示やゲームを企画しました。
今回は準備から当日の様子を
各プロジェクトのメンバーの方に取材しました。

Photo

当日の様子です
子どもたちと触れ合う大学生の
姿をご覧ください！



1. 献立作成ゲームの様子



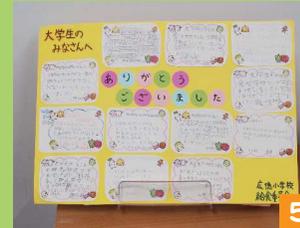
2. クイズに集まる子どもたち



3. 子どもたちの献立に
アドバイスをする大学生



4. 販わう食べ物クイズ



5. 子どもたちからのお礼の言葉

今回の活動を依頼された
広徳小学校栄養士 赤宗さんからの
コメント

「大学生が小学校に来て、食育についての活動を行ってくれるというのは、子どもたちに新鮮で良い刺激になったと思います。子どもたちも興味津々にはしゃいで楽しみ、学んでいました。教員と違った大学生がしているというだけで、子どもは興味をもって見聞きしてくれていたのだと思います。北九州市立大学の学生さんも、子どもと触れ合って学んだことがきっとあると思いますので、これからの活動にぜひ生かしてください。また機会があれば、何かしていただきたいなと思えました。」

ありがとうございました！



食べもののランド × 食べる国際貢献プロジェクト

1. 準備期間の様子を教えてください

メンバーで、小学生に行うクイズの内容を提案しながら決定しました。その過程で、何度も小学校の栄養士の方と連絡を取り合い、小学生に伝わるように工夫しました。クイズでは、私たちの活動について少しでも知ってもらおうとTFTにちなんだものを考えましたが、食料問題について小学生には難しいという懸念がありました。そのため、模造紙にまとめる際には、言葉を簡単に直したり、ふりがなをつけたりしました。また、イラストを添えることで興味をもってもらえるよう、小学生の気持ちになってどうしていくかを考えて、工夫しました。

3. 今後の展望を教えてください

今までのプロジェクトの活動ではなかなか小学生と関わる機会がなかったので、国際貢献に関する事実をどのように伝えるか悩みましたが、新鮮なリアクションを見ることができてよかったです。低学年には特に難しかったようですが、普段考えることのないアプリカやアジアの子どもたちの生活を少しでも考えるきっかけになったのではないかと思います。1か月後には改めてTFTに関する紙芝居をする予定なので、今回学んだことを活かしていきたいと思っています。

【食べる国際貢献プロジェクト (TFT×kitagata)】

世界人口の約10億人が飢餓で苦しむ一方で、約20億人が食べ過ぎによる肥満状態にあります。そんな食糧の不均衡を解消するための活動がTABLE FOR TWO(TFT)です。プロジェクトでは、学食でTFT対象メニュー



を販売することで1食につき20円が開発途上国に寄付する活動をしており、20円は学校給食1食分として子どもたちに届けられます。10月に北九大で行われたTFT期間では5日間で約800食分寄付することができます。

食べる国際貢献プロジェクト
外国語学部 3年
松根 知美 (まつね ともみ)

2. 当日の様子を教えてください

当日は、小学生に問題の解説や誘導、問題を解いてくれた子のスタンプカードにスタンプを押しました。その中で、子どもたちと会話をしたりして深く交流をすることができました。よかったことは、子どもたちの素直な反応を見る事ができたことです。子どもたちが「すごい！」と言ってびっくりしてくれたり、難しいところでは真剣に考えてくれたりしているのを見ることができて、よかったと思いました。

食べもののランド × 食と農業まなび場プロジェクト

1. 準備期間の様子を教えてください

展示物の準備、ゲームの一つである献立作成用の料理のイラストの切り抜きなどを行いました。漢字には全て平仮名をつける、ポスターに興味を持ってもらえるようなイラストをつけるなど、常に展示物を見る子供のことを考えなければならなかったことが大変でした。また、ゲームのPOPや展示物が子供の興味を引くように作ることに頭を使いました。

2. 当日の様子を教えてください

当日は、「赤・黄・緑」の3色の食べ物を使って、実際に子どもたちに献立を作成してもらったゲームや、展示物の大学生の食にまつわる体験談を見たり、自分たちが作った料理の紹介をしたりしました。プロジェクト活動で子どもと関わる機会が初めてだったこともあり、献立作成のときに大学生の手際が悪く、出来なくて残念そうに帰る子どもが出てしまい、申し訳なく思いました。2日目以降は反省を活かし、すべての子どもが楽しんでゲームに参加出来たのでよかったです。

3日間を通して、高学年の子が低学年の子にルールや答えを教えるなどの普段見ることができない等身大の子どもたちの姿も見ることができました。

3. 今後の展望を教えてください

再びこのような地域に出る機会があれば、準備のスケジュール管理や当日の段取りの確認の甘さなどの今回の反省を活かしたいと思います。また、調理実習を続けて、自分たちのスキルをあげて、教室などを開けたらいいなと思っています。

【食と農業まなび場プロジェクト】

このプロジェクトは、1人暮らしの大学生などにありがちな、自炊能力の低下や栄養の偏りを解決しようと今年度から発足しました。現在は6人で活動しており、自炊能力の向上のための調理実習や食育に関する



活動を行っています。初めは包丁さえ扱えなかったメンバーが、半年足らずで楽しく料理が出来るようになってきました。これから発展をしていくであろうプロジェクトでメンバーを募集中です。

食と農業まなび場プロジェクト
地域創生学群 1年
河野 裕平 (かわの ゆうへい)